

パタン王宮(世界遺産)(ネパール国パタン)

パタンは西暦 299 年にヴィール・デーヴァ王により設立されたと言われているが、学者たちの定説ではパタンは古代に設立され、発展したとされている。中世にはマッラ朝により、さらに拡大された。多くの伝説を含むいくつかの歴史的記録によれば、パタンはカトマンズ盆地で一番古い都市であるとされている。非常に古いキラット年代記の一つにはパタンはリッチャヴィ朝の支配者たちがカトマンズ盆地に侵入する前に創設されているとされている。その年代記によればキラット王朝の最も古い首都はタンコットであった。キラットの王、ヤランベルが権力を掌握すると、現在の首都、カトマンズは 2 世紀頃、タンコットからパタンに移動させられたと考えられている。パタンをネワール語で表現するとき最も使われる「ヤラ」はヤランベル王が自分の名前をつけたといわれる。

統一マッラ朝は 1484 年にバクタプル・マッラ朝 (バクタプル王国) からカトマンズ・マッラ朝 (カトマンズ王国) が独立し、さらに、1619 年までに、パタン・マッラ朝 (パタン王国) が独立して三王国時代に入る。パタン (ラリトプル) には当時の王宮はじめ多くの文化財が残されている。

パタンは最初、仏教の「ダルマ・チャクラ」(法輪)の形に設計されていた。パタンの市域の周囲には四つの塚があり、人々のあいだではアショーカ王の仏塔として知られている。伝説によると、インドの王アショーカは紀元前 250 年に娘とともに、カトマンズを訪れ、パタンの周囲に 4 つ、中心に一つの仏塔を立てたという^[7]。パタンにはさまざまな規模や形の仏教の記念物が 1, 200 以上存在する。

町の最も重要な記念物はパタン・ダルバール広場である。これはユネスコの世界遺産「カトマンズ盆地」の一部として登録されている。

Wikipedia による

3 つのチョーク (中庭を囲む建物) からなるこの旧王宮は、それぞれの門から出入りするような構造の複合建築物です。最盛期には 12 のチョークがあったと言われています。北には現在パタン博物館となっているマニ・ケシャブ・ナラヤン・チョーク、南には 3 つの中で一番大きなムル・チョーク、一番南は木彫りの建物に囲まれた美しい 3 層構造のスندگانリ・チョークがあります。

DTAC ネパール観光情報局サイトによる

